



# KICKLE

キックル

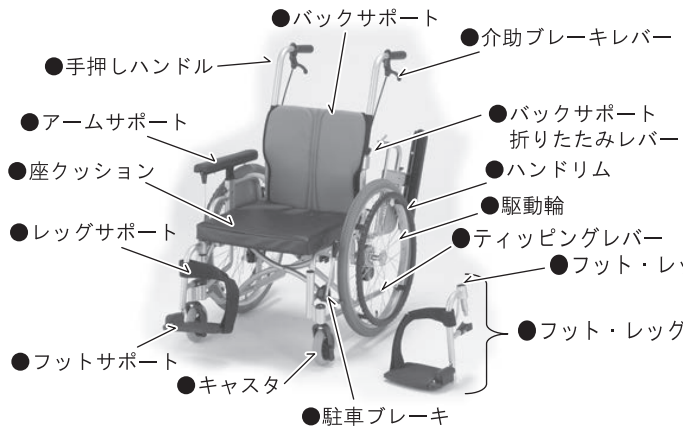
## 取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。  
 なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。



目次はP19に掲載しております。

## 各部の名称



**!** 出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、P6をご覧ください。

## 仕様・サイズ

- 全長：96(89)cm ●全高：92(60)cm※1 ●全幅：61(35)cm※2 ●バックサポート高：40cm
- 前座高/後座高（座クッション除く）：調節式 36/34・38/36・40/38cm
- 手押しハンドル高：89cm※1 ●アームサポート高：調節式 22・24・26・28・30cm
- フットサポート・シート間距離：調整式 26～30cm※1（座クッション含まず）
- キャスタ：5インチ ●駆動輪：20インチバンド式制動ブレーキつき車輪
- 重量：約15kg（座クッション除く） ●耐荷重：100kg
- 使用時適正駆動輪タイヤ空気圧 65 P S I（450kPa/4.5BAR）※3
- 駆動輪取付けナット インチねじ（UNF1/2-20山）を使用

( )は折りたたみ時の寸法です。  
 ※1 は前座高36cm設定時の寸法です。  
 ※2 はシート幅40cm仕様の寸法です。  
 ※3・・・ノーパンクタイヤ仕様を除きます。

## 車いすの拡げかた

- 1 手押しハンドルを持って軽く左右に拡げてください。



- 2 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。

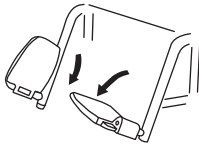


注意  
警告



押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

3

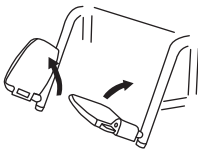


フットサポートプレート  
を下方へ回転させるよう  
にセットします。使用者  
が車いすに座ってから行  
うのが一般的です。

## 車いすの折りたたみかた

※折りたたみは座クッションを外してから行います。

1



フットサポートプレート  
を上方へ回転させて収納  
します。

2



座面シートの、  
前後中央部を持  
ち上げます。

3



手押しハンドルを持って、  
左右から押し縮めるよう  
に折りたたんでください。

## バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

### 折りたたみかた

1



2



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

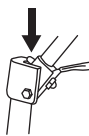
### 固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ずご確認ください。



注意  
警告



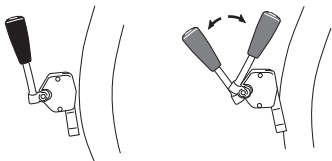
- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

● 車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

## 駐車ブレーキのかけかた（標準仕様の場合）

解除時

駐車



- レバー先端のノブを手で前方に押し、もしくは後方に引くと駐車ブレーキがかかります。中間の位置が解除です。

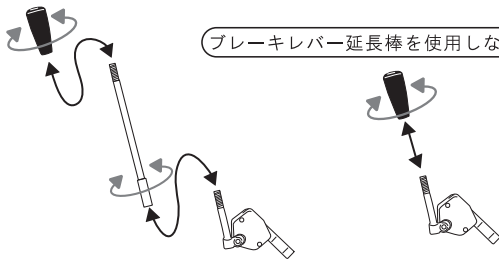


注意  
警告

- ・ しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・ 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。

## 駐車ブレーキレバーの長さの変えかた（標準仕様の場合）

ブレーキレバー延長棒を使用しない場合



- ブレーキレバーの先端のノブ及び、ブレーキレバー延長棒はねじこみ固定式です。回転させることで、取外しと、ブレーキレバー延長棒の左右の入替えが可能です。
- ブレーキレバーの長さを変えた際は、各パーツがしっかりとねじこみ固定されていることを確認してください。

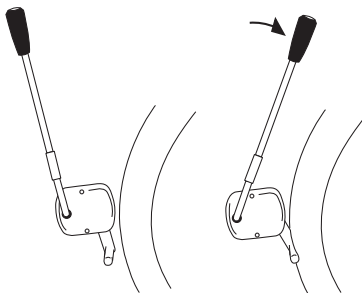
ブレーキレバー延長棒を使用する場合

## 片がけ用左右連動駐車ブレーキ(オプション)のかけかた

操作側

解除時

駐車



- 操作側（レバーの長い方）のノブを手で後方に引くと左右両駆動輪の駐車ブレーキがかかります。中間の位置が解除です。（レバーを前方に押ししてブレーキをかけることはできません。）

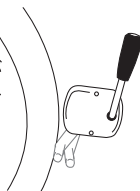


注意  
警告

- ・ しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・ 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。

連動側

- 連動側は、レバーが動かずに、ブレーキシューのみが動きます。



右操作・左操作の変更作業には、レバーの長さの変更の他に、ブレーキ本体の位置の調節も必要となります。右操作・左操作の変更作業は、専門知識と技術を持った販売店にご相談ください。

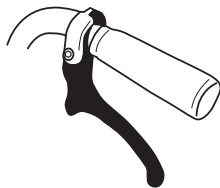


禁止

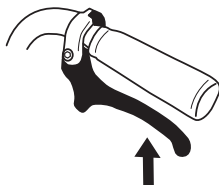
片がけ用左右連動駐車ブレーキは、レバーを押ししてブレーキをかける仕様に改造することはできません。改造はしないでください。

※説明イラストは左操作用です。右操作は左右対称の形状となります。

## 介助ブレーキ（制動ブレーキ）のかけかた



解除時



制動ブレーキ

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



禁止

介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

## 駆動輪の操作のしかた



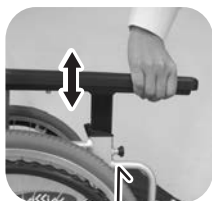
- ・乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押ししたり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- ・走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。



注意

タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

## アームサポート高の調整のしかた



調整用ボタン

- アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用ボタンがロックされれば調整は完了です。



- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・アームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。

外側 内側



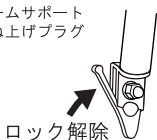
アームサポートは、パッドの幅の広い方が車いす外側、パッドの幅の狭い方が車いす内側になります。内側と外側を逆に取付けた場合は、アームサポートの跳ね上げができなくなります。

## アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

### 跳ね上げのしかた



アームサポート  
跳ね上げプラグ



アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上に戻転させるようにしてください。



### 戻しかた



戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押し下げてください。



### 注意 警告

- ・アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- ・跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- ・戻すときには、アームサポートと座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。

## バックサポートの張り具合の調整のしかた



1. バックサポートシートをはずしてください。

2. 任意にマジックベルトを緩めてしっかりとマジックベルトを固定してください。

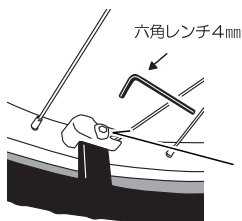
3. バックサポートシートをかぶせて完成です。



### 注意 警告

- ・使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず一本ずつはずして調整してください。全てはずすと、乗車者が落下しケガをする恐れがあります。
- ・バックサポートの張り調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・ベルトは5cm程度たるませるのが限界です。それ以上たるませると、マジックの効きが弱くなり、ベルトがはずれる可能性があります。

## ハンドリムの着脱のしかた



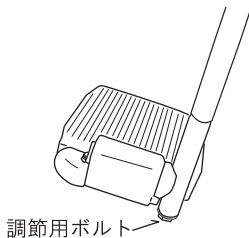
ハンドリムと駆動輪を固定している、ハンドリム固定ボルトを4mmの六角レンチで緩めてはまずと、ハンドリムを駆動輪からはずすことができます。はずしたハンドリムを取付ける際は、ハンドリムを元通りにセットし、4本のハンドリム固定ボルトをしめて、しっかりと固定します。



ハンドリムの着脱につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。

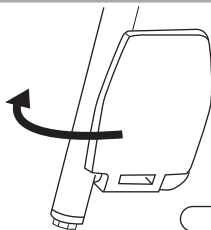
## フットサポートの調節のしかた

- フットサポート下端の調節用ボルトを13mmのスパナで緩めて、高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。（上下にスライドしにくい場合は、プラスチック製ハンマーなどで、調節用ボルトを下からたたくようにショックをあてると緩みます。）



注意

- ・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。
- ・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から5cm以上あげてください。
- ・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。

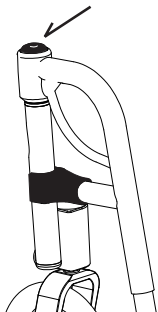


調節用ボルト

出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。調節用ボルトを緩めて、前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

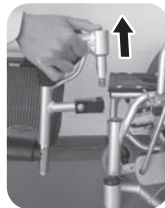
## フット・レッグサポートの着脱のしかた

フット・レッグサポート着脱ボタン



はずしかた

フット・レッグサポート着脱ボタンを押しながら、フット・レッグサポートを上方に引き抜くと、フット・レッグサポートをはずすことができます。



取付けかた

フット・レッグサポート着脱ボタンを押しながら、フット・レッグサポートを上方から奥までさし込みます。しっかりとロックがかかり、フット・レッグサポートがメインフレームに固定されたことを確認してください。



注意  
警告

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・フット・レッグサポートの着脱はゆっくりと、静かにおこなってください。
- ・使用前には、フット・レッグサポートのロックがしっかりとっかかって、フット・レッグサポートがメインフレームに確実に固定されていることを確認してください。

## フット・レッグサポートの車いす後方への収納のしかた



取り外したフット・レッグサポートをバックサポート後方のパイプに差し込んで収納することができます。



フット・レッグサポート着脱ボタンを押しながら、バックサポート後方のパイプにフット・レッグサポートをさし込むことができます。はずすときは、フット・レッグサポート着脱ボタンを押しながら上方に引き抜きます。



**注意  
警告**





- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・フット・レッグサポートの着脱はゆっくりと、静かにおこなってください。
- ・収納時には、フット・レッグサポートのロックがしっかりとかかって、フット・レッグサポートがパイプに確実に固定されていることを確認してください。

※左右のフット・レッグサポートは右後方・左後方のどちらにも取付け可能ですが、右側用のフット・レッグサポートを左後方に、左側用のフット・レッグサポートを右後方に収納するとフットサポートが駆動輪にあたりにくくなり、より便利です。

## シートベルトの使いかた

- シートベルトつき仕様の車いすに乗車の際は、乗車者は必ずシートベルトを装着してください。

### シートベルトの種類ととめかた

-  ベルトについているマジックで合わせてとめます。
-  カンにベルトを通し、折り返してマジックを合わせてとめます。
-  バックル部分を差し込んでとめます。はずす際は、バックルのツメ部をつまんで、ロックをはずしながら引き抜きます。
-  バックル部分を差し込んでとめます。はずす際は、バックル中央の解除ボタンを押して、ロックをはずしながら引き抜きます。



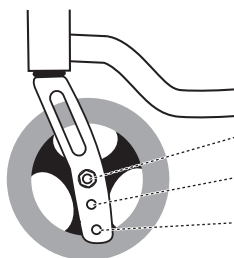
**注意  
警告**

- シートベルトを誤っておしりの下に敷いて長時間座ると、床ずれ等の原因にもなります。十分注意をしてください。
- 誤ってシートベルトを装着したまま車いすから降りようとすると、車いすと一緒に転倒する可能性があります。十分注意してください。
- 装着時には、ベルトのマジックやバックルが確実に固定されていることを確認してください。

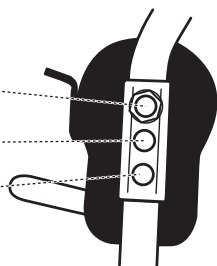
## 座面高の調節について

キャスタ車輪を止めている車軸ボルトの穴位置と駆動輪を止めている車軸ボルトを取付けている穴の位置を変更することで座面の高さを変更することができます。

キャスタ



駆動輪



①前座高36cm/後座高34cm

②前座高38cm/後座高36cm

③前座高40cm/後座高38cm

キャスタ車輪の車軸と駆動輪の車軸は①・②・③のうちの同じ番号の位置に設定してください。  
※座面高を変更する場合は、駐車ブレーキの調節も必要となります。



キャスタと駆動輪の車軸を①・②・③の番号が異なる組合せで設定しないでください。正常な走行ができなくなり危険です。

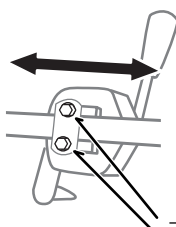


- ・車軸ボルト・ナット類はしっかり締めてください。車輪が脱落し、事故につながるおそれがあります。
- ・車軸ボルトのワッシャー類は元通りにセットしてください。



座面高の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。

## 駐車ブレーキの調節方法（座面高を変更した場合は必ず調節してください）



- ①駐車ブレーキのブレーキ取付けボルトを緩めます。
- ②ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ブレーキ取付けボルトをしっかり締めて固定し、完了です。



使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ取付けボルトでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。



## 使用前点検（必ず行ってください）

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
- シート・ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
- 駆動輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。（不足している場合は補充してください）
- 駆動輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
- 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
- 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、亀裂等がないかご確認ください。
- 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。



**警告**

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

## メンテナンス・保管方法

- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けて下さい。

## ご確認ください

キックルは乗車者自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背）の角度調整・座位の姿勢変換（昇降・旋回など）等の機構がない、標準型の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準型が適しているも、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。



## 警告

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。
- 各部の調整・調節を行うときは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 車いすはバランスをくずして転倒することがあります。乗車者、介助者とも、車いすが転倒しないように十分に気をつけて使用してください。悪路や坂道、傾斜路などでは特に注意してください。
- エスカレーターでの使用はしないでください。転落による事故のおそれがあります。
- 踏切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルやフレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒する恐れがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやフットサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながる恐れがあります。）
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。



## 注意

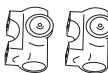
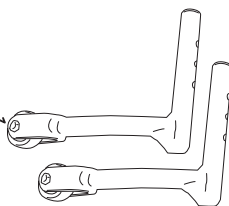
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくとう製品に錆びやカビが出ることがあります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。



転倒防止装置の取付けにつきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。

### ■ パーツ(1台分)

転倒防止バー  
(2本)



クランプパーツA(2個)



クランプパーツB(2個)



ボルト(8本)



ワッシャ(8枚)

### ■ 取付けかた

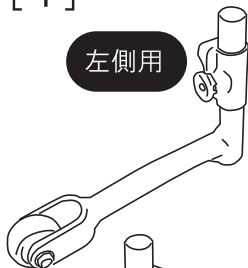


注意

取付け作業は、キックルの左右の駐車ブレーキをかけて行ってください。作業中に車輪が回転すると、スポークで手指にケガをするおそれがあります。

[ 1 ]

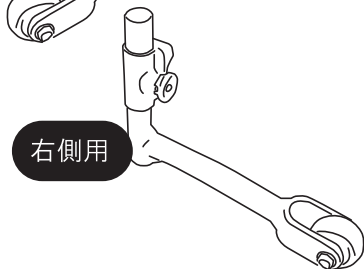
左側用



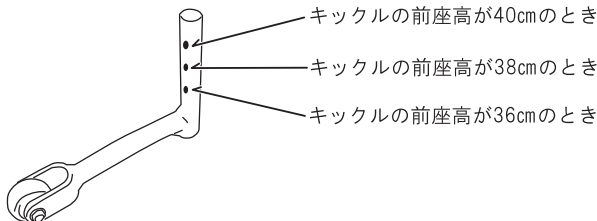
クランプパーツAのボタンを引きながら、転倒防止バーをクランプパーツAに差込みます。

クランプパーツAのボタンから手を離し、ボタンの先端のピンが、下図のキックルの前座高に該当する穴にしっかりとハマるようにしてください。

右側用



ボタン先端のピンで固定する穴の位置



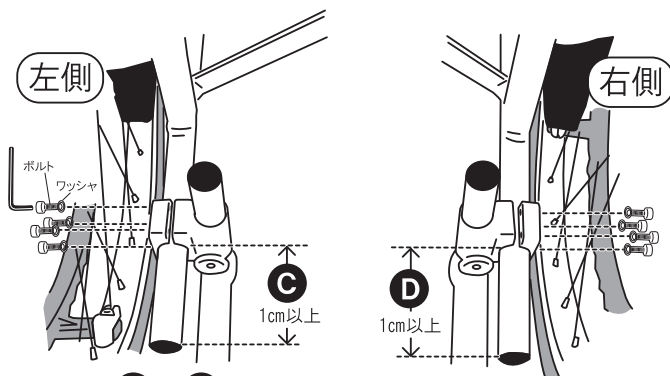
## [ 2 ]

キックルの左右のティッピングレバーに、下図の通りに、クランプパーツA・Bを取付けます。  
(クランプパーツAが車いす内側・Bが外側になるように取付けます。)

まず、クランプパーツAと転倒防止バーの位置を、キックルのティッピングレバーに仮に合わせてみて、車いすのフロント部を持ち上げ、フロントアップ時に転倒防止装置が地面に接地し、車いすが後方転倒しないようになる取付け位置を確認してください。

取付け位置が決まったら、付属のボルトを5mmの6角レンチで締めて、クランプパーツをしっかりと固定します。ボルトにはワッシャを通してください。

※下図のCとDの寸法は必ず同一になるようにしてください。また、下図の寸法の条件は必ずまもってください。

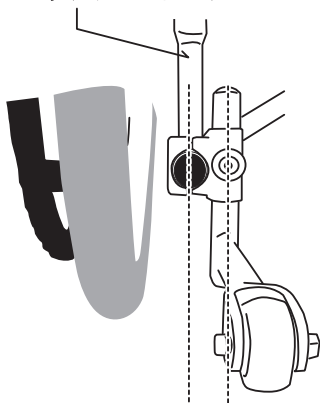


**C**と**D**の寸法は必ず同じになるように取付けてください。

また、上記の寸法条件を必ずまもってください。

## [ 3 ] 最終確認

バックサポートパイプ

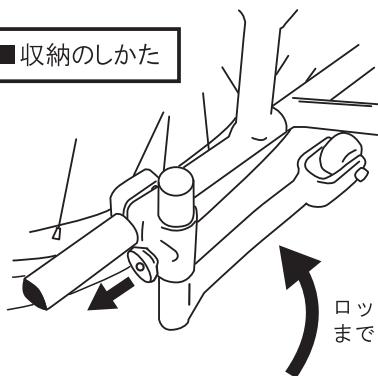


- 車いす後方から、目視で、キックルのバックサポートパイプと転倒防止バーが平行になっていることを確認してください(左図参照)。左右とも確認してください。

(平行になっていない場合は、[2]の手順で、再度クランプをつけなおしてください。)

- クランプがボルトでしっかりと固定されていて動かないことと、転倒防止バーが、キックルの前座高に合った正しい穴で確実にロック固定されていることを確認してください。
- 乗車前に、車いすのフロント部を持ち上げてみて、フロントアップ時に転倒防止装置が地面に接地し、車いすが後方転倒しないことを必ず確認してください。転倒防止装置が接地せずに、後方転倒してしまうような場合は、[2]の手順で再度、クランプの位置を変更し、つけなおしてください。

## ■ 収納のしかた



- クランプパーツのボタンを引ながら、転倒防止バーを車いす内側に回転させて収納することができます。収納後、クランプパーツのボタンが戻り、ピンでしっかりと転倒防止バーが固定されていることを確認してください。



## 使用上の注意

- 転倒防止バーをティッピングレバーとして使用しないでください。（転倒防止バーを足で踏まないでください。）
- 転倒防止バーを持って車いすを持ち上げないでください。
- 使用前には、クランプパーツが正しい位置にしっかりと固定されていて、動かないことを確認してください。＜クランプパーツの正しい位置については、前頁（P12）を参照してください。＞
- 転倒防止バーがクランプパーツのボタン先端のピンでしっかりと固定されて、はずれないことを確認してください。転倒防止バー収納時にも同様の確認をしてください。
- 転倒防止バーは正しい穴位置で固定してください。＜正しい穴位置につきましては、P11取付け方手順 [ 1 ] を参照してください。＞
- 転倒防止装置を使用の際は、かならず左右両方の転倒防止装置を後方に引き出してください。片側だけを引き出して使用しないでください。
- 製品に異常がある場合は使用を中止し、販売店に点検・修理・交換をご依頼ください。
- キックル本体の座面高を変更した場合は、必ず、P12取付け方 [ 3 ] の最終確認を再実施してください。

### ■ パーツ(1台分)

テーブル	1枚
ネジ	2本
化粧ナット	2個
ベルト	2本

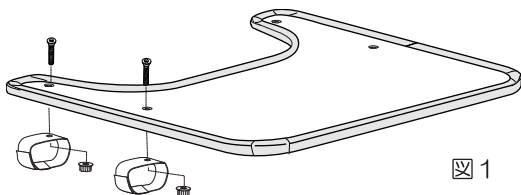


図1

### ■ 取付けかた

※以下は、車いすを右手駆動する場合の取付け例です。左手駆動の場合は左側のアームサポートパッドに取付けます。

#### ①【テーブルの組立て】

上の図1のように、ネジをテーブルに通し、裏面に化粧ナットでベルトを取付けます。

右図2のように、ベルトの「ペロ」が車いすの外側になるようにします。

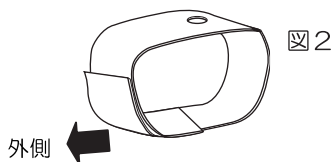


図2

#### ②【車いすへの取付け】

右図3のように、車いすのアームサポートパッドにテーブルを置きます。化粧ナットがアームサポートパッドの内側になるように置いてください。

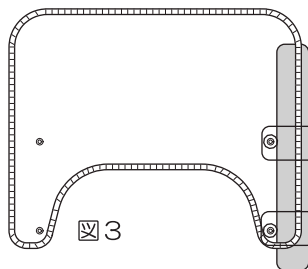


図3

#### ②【車いすへの固定】

化粧ナット側についているマジックベルトでアームサポートパッドを巻き、マジックテープを貼り合わせます。

前後、2箇所のマジックテープを固定します。

### ■ メンテナンス

洗浄：中性洗剤を使用し、柔らかい布で拭いてください。

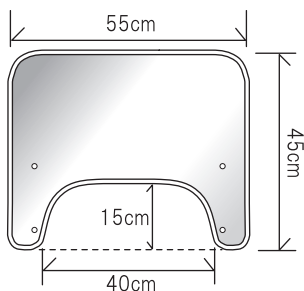
研磨剤やブラシなどを使用しないでください。傷がつく場合があります。

乾燥：水分を柔らかい布などで吸い取ってください。乾燥機は使用しないでください。

消毒：消毒用アルコールなどを吹き付け、拭きとってください。

※注意：シンナーやベンゼンを使用しないでください。

### ■ 仕様



天板：ポリカーボネイト製

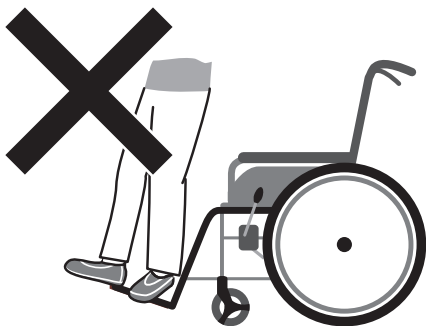
耐荷重：10kg

## 車いすを安全にご使用いただくための注意事項



禁止

フットサポートの上に立たないでください。

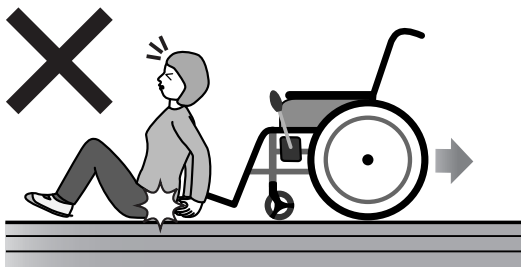


車いすのフットサポートの上に立つようなことはしないでください。製品の破損のおそれだけでなく、転倒による事故の危険があります。



注意  
警告

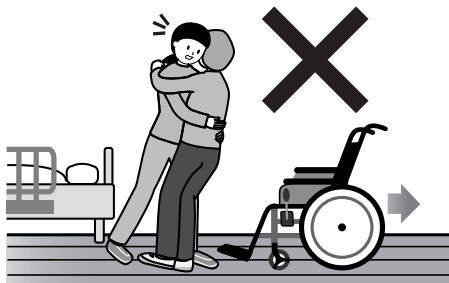
車いすからの乗り降りは、左右の駐車ブレーキを確実にかけておこなってください。



車いすから乗り降りする場合は、左右の駐車ブレーキを確実にかけて、乗降動作をおこなってください。駐車ブレーキがかかっていない状態での乗り降りは、転倒や車いすが思わず動き出してしまうことでの事故の危険があります。

左右の駐車ブレーキを確実にかけて行ってください。

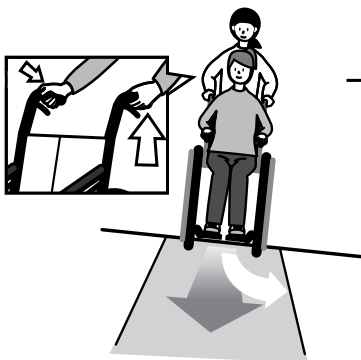
- 車いすからの乗り降り
- 車いすからベッドなどへ、ベッドなどから車いすへの移乗
- 車いすからはなれる



## 車いすの使用のポイント

### 押し方

介助者が車いすのグリップを握り、進行方向へ押します。急発進・急停止は、乗車者に不快感を与えます。声をかけるなどの配慮をお願いします。



### ■外での注意（傾いた道での押し方）

傾いている側の手に力を入れて、車いすが低いほうへ曲がらないようにして押します。普通の押し方では低いほうに曲がってしまいます。

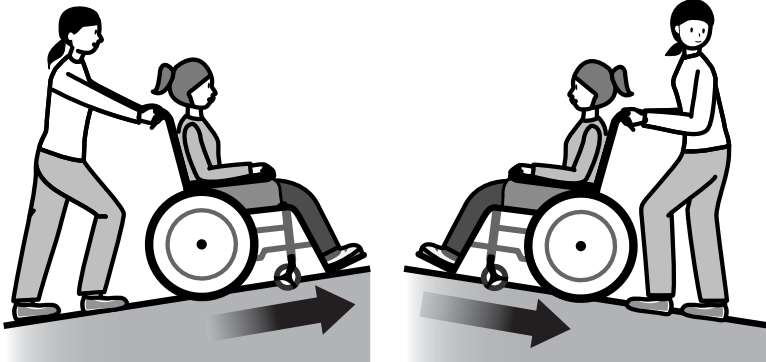
### 段差



- 1** 段差の直前で停車します。
- 2** グリップを引きながら同時にティッピングレバーを踏み、キャストを上げます。
- 3** 段差に駆動輪（主輪）を当てます。
- 4** グリップを持って車いすを持ち上げ、段差を乗り越えてください。



## 坂道



上がる時は前向きで。

下るときは後向きで。

坂道では、前傾の姿勢で前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。



坂道を前向きで下ると、乗車者が前方へ転倒したり、前方へズレたりして大変危険です。

## 溝や踏切

キャストや駆動輪の幅・直径よりも広い溝や踏切等を通過する場合は、溝に対して直角に進入してください。直角でない場合、キャストや駆動輪が溝にはまり、抜けなくなる恐れがあります。溝の手前でキャストを持ち上げ、通過する方法もあります。



## グレーチング

グレーチング（側溝を埋める金網など）を通過する場合は、右図のようにグレーチングに対して斜めに進入してください。



## 車いすのトラブルシューティング

故障かな？と思ったら、まずは販売店へお問い合わせください。

症状	原因	解決方法
斜行する。 まっすぐ走らない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。(左右の違い) 駐車ブレーキが解除されていない。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。 駐車ブレーキを解除してください。
	キャスタ取付けが緩んでいる。 キャスタ輪がスムーズに回転しない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。 ブレーキシューが汚れている。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。 ブレーキシューの油分を拭きとってください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキががたつく。(本体が動く) ブレーキシューとタイヤが当たっていない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
介助ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキのワイヤーの伸び、切れ。 ブレーキシューの磨耗。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
主輪・駆動輪(タイヤ)に空気が入らない。	タイヤ用空気入れの種類が合っていない。	正規のタイヤ空気入れを使用してください。 お買い上げの販売店へご相談ください。
	タイヤチューブのパンク。 タイヤバルブ(虫ゴム)のやぶれ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすを折りたためない。	フットサポートが干渉している。 積載物などがはさまっている。	正規の状態にして再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 介助ブレーキのワイヤー等の引っかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
車いすをひろげられない。	駆動輪・主輪が縁石などに当たっている。	広い平らな場所で再度お試しください。
	シート・バックサポートのインナーベルトを張りすぎている。	張り調整をしながら、再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 シートの狭みこみ。 介助ブレーキのワイヤー等の引っかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
異臭がする。	シートやアームサポートの汚れ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。 車いすがぐらつく。	シートの伸び等による干渉。 サビ・磨耗・汚れ等による油切れ 主輪・駆動輪取付けの緩み	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。



### ウレタン素材には 寿命 があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



アームサポート  
パッド

など

---

# 目次

---

P 1	．．．	各部の名称 仕様・サイズ
P 2	．．．	車いすの上げかた 車いすの折りたたみかた バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた
P 3	．．．	駐車ブレーキのかけかた（標準仕様の場合） 駐車ブレーキレバーの長さの変えかた（標準仕様の場合） 片がけ用左右連動駐車ブレーキ（オプション）のかけかた
P 4	．．．	介助ブレーキ（制動ブレーキ）のかけかた 駆動輪の操作のしかた アームサポート高の調整のしかた
P 5	．．．	アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた バックサポートの張り具合の調整のしかた ハンドリムの着脱のしかた
P 6	．．．	フットサポートの調節のしかた フット・レッグサポートの着脱のしかた
P 7	．．．	フット・レッグサポートの車いす後方への収納のしかた シートベルトの使いかた
P 8	．．．	座面高の調節について 駐車ブレーキの調節方法
P 9	．．．	使用前点検（必ず行ってください） メンテナンス・保管方法 ご確認ください
P 10	．．．	警告 注意
P 11	．．．	オプション転倒防止装置取扱説明
P 14	．．．	オプション透明テーブル取扱説明
P 15	．．．	車いすを安全にご使用いただくための注意事項
P 16	．．．	車いす使用のポイント
P 18	．．．	車いすのトラブルシューティング
P 19	．．．	目次
P 20	．．．	保証規定・品質保証書

# 保証規定

## I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はご購入後1年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
  - (a) 取扱い過誤による故障。
  - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
  - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
  - (d) 消耗部品、タイヤなど。
  - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
  - (f) 保証書のご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

## II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はご購入の販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

## III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

# 品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りご購入日より「1年間」無償にて修理致します。

機種	キ ッ ク ル		
お客さま	ご住所	〒	
	(フリガナ) ご氏名		
お買上げ日	年 月 日	保 有効年	年 月 日 まで
販売店	<b>見本</b> (印)		
製造元			
<b>日進医療器株式会社</b> 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787			

## 日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35番地の2  
TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787  
東京営業所 〒112-0002 東京都文京区小石川 1-21-14  
TEL <03>3814-0923(代) FAX <03>3814-4644  
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10  
TEL <06>6323-8265(代) FAX <06>6326-2554  
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目 3-8  
TEL <092>513-5036(代) FAX <092>513-5038

### 製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、お住まいの自治体のルールに従ってください。